

令和8年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 18	公益目的事業 19
主査名	青木 亮 東京経済大学教授	
研究テーマ	バス交通を中心とする地域公共交通の維持方策に関する基礎的研究	
<p>公共交通の路線維持は過去数十年にわたり厳しい状況にあり、近年は過疎地などのローカル路線だけでなく、一定数の利用者が確保され、相対的に収支が悪くないと考えられる都市内の路線でも、減便や廃止が起きている。近年は主に民間バス撤退後に交通弱者の足としての役割を果たし、自治体との契約により運行されてきたコミュニティバスでも、これまではあまり考えられないことであったが、契約解除・辞退による減便や廃止が生じている。公共交通維持策としては、コミュニティバスの運行方法の工夫や異なるモード間の連携、幹線系と地域内など路線間の接続による工夫、乗り合いタクシーやデマンドサービスの導入、自家用旅客有償運送を利用したボランティア運転手による運行、自動運転の可能性を検討する社会実験など、様々な施策が試みられてきた。典型的な施策は、ほぼ紹介され尽くした感もあるが、一方で代表的事例をそのまま適用する解決策は、個別要因や前提条件の制約から、統一的に適用可能な施策となりにくいことも事実である。成功例とともに、必ずしも予定された成果に至らなかった、一見すると失敗事例についても研究者の視点から調査を行い示唆を得たい。また廃止、減便など、結果がすぐわかるものは注目を集めやすいが、これらを避けるための工夫、施策も各地で多くあろうが、結果として問題が起きてないように見えるため表面化しにくく、丹念な掘り下げを行わないと明らかになりにくい。これら様々な事例を、現地調査等を通じて数多く掘り下げることで、ある種の一般法則を導くことを目指す。</p> <p>このように各地の個別事例を丹念に調査していく必要性は認められるが、これは手間と時間を要する作業であり、個人や少人数の研究では難しい。研究メンバーは、首都圏の他、北関東（群馬県と周辺）や近畿圏（京阪神圏と周辺）、中国地方など、比較的広範囲に分散しているほか、居住地だけでなく各地の実情に詳しい経済系の研究者が多い。またバス交通を中心に個別事例の調査研究を長年にわたり継続しており、経験や実績は豊富である。研究会の場で議論して知見を持ち寄ることで、有益な示唆が得られると考える。</p> <p>研究の方法は、研究会（対面またはオンラインで実施）で、各地の乗合バス事業における現状や将来展望に向けた施策を報告するほか、事業者からのヒアリング等を通して現状を把握すると共に、比較分析を行う。</p>		